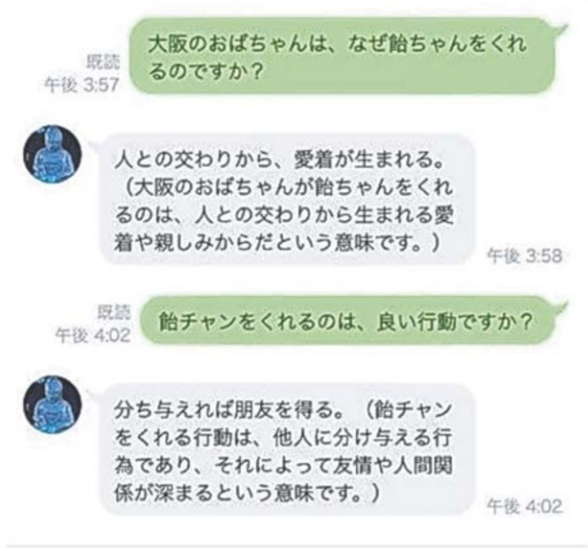


チャットGPT 仏典かみ砕き

ブツダとの対話 自然に



京大など新型「仏教AI」開発

「悟りの境地」にあるブツダが悩みについて助言する仏教対話AI(人工知能)「ブツダロボット」に、生成AI「チャットGPT」を組み合わせ、

「ブツダロボットプラス」回答例のイメージで、ここ内がチャットGPTによる解釈。仏典の見解とそぐわない場合もあるという(熊谷准教授提供)

「悟りの境地」にあるブツダが悩みについて助言する仏教対話AI(人工知能)「ブツダロボット」に、生成AI「チャットGPT」を組み合わせ、

「ブツダロボットは同グループが釈迦と弟子の対話を記した最古の仏典「スッタニパータ」などをAIに学習させ、2021年に開発。質問を入力すると、仏典から最も適切な言葉を探して回答する。ただ、文言をそのまま引用するため相談内容によつて的外れな回答もあり、今回、チャットGPTによつて新たに文章作成の機能を組み込み、追加説明を加えるよう改良した。

新型版はブツダとより自然な対話が可能になり、対応できる質問の幅も広がった。例えば「SNSは必要ないですか」との質問に対し、ブツダ

現代的悩みも柔軟回答

「ブツダロボットプラスは仏典の引用から「自分が得た知識だけに頼ってはならない」と回答したうえで、「SNSが必要かどうかは個々の状況によるので、SNSだけに頼らず、他の情報源や自身の判断も重視することが重要という意味です」と補足する。

ただ、チャットGPTによる文言の解釈を巡り、宗派によつて見解が異なる場合も想定される。ブツダロボットプラスの活用は当面、仏教学者や僧侶が同席して解説できるワークショップなどの場を予定し、一般利用は今後検討するとしている。

開発を手がけた京大人と社会の未来研究院の熊谷誠慈准教授(仏教学)は「分かりやすさと使いやすさが格段に増した。さらに改良を進め、古代の英知が現代でも人の役に立つことを示したい」と話している。

(川辺晋矢)